

名前のない新聞の置いてある

## お店紹介

対抗文化の本屋さん

## 気流舎

155-0032 東京都世田谷区代沢529-17

飯田ハイツ1F TEL.03-3410-0024

Open：平日 18時くらい～23時くらい

土日祝 14時くらい～23時くらい

不定休。ずる休み有り。

Mail：kiryuusha@gmail.com

HP：http://www.kiryuusha.com/

下北沢駅南口の商店街を下って、隙間なく並ぶ店がひと息ついたあたりの路地を少し入ると、不思議の国の入り口みたいな白木のドアがほっこりある。そこが「対抗文化専門古書」の看板を掲げるブックカフェ、気流舎だ。「対抗文化＝カウンターカルチャー」といっても、60年代の文化に懐古的に浸るのではなく、現代の「対抗文化」を模索する場所として、広くオルタナティブな生き方に関わる本を揃えている。サイケデリックなヒッピー思想から、反グローバル化運動以降の新しいアナキズムに関するものまで、狭い空間にぎっしり詰まっていた独自の本宇宙を形成している。本は、一部非売品のものを除き、古書、新刊書として販売されている。

不定期に勉強会、読書会、ライブなどもしている。4坪のお店の真ん中には柱があって、その周りには5、6人でぐるっと囲めるくらいのテーブルになっている。店内にはベンチや横になってくつろげるロフトスペースがあり、飲み物を片手にゆっくり読書ができる。こくのある珈琲、スパイスたっぷりの豆乳チャイ、昔の芸術家たちを虜にした緑の魔酒



アップサンほかアルコールも各種取り揃えている。

気流舎の立ち上げは2007年。一時は憧れたデザイン会社をドロップアウトした店主は、人と人が本を介して出会える場を作りたいと、下北沢に店を出すことにした。シュタイナー建築を学んだという建築家に設計をもらい、あとは仲間と1年かけてセルフビルド。店の名前は店主の大好きな真木悠介の『気流の鳴る音』からもらった。店の基軸はここにある。真木さんが気流舎に来るといううれしい騒ぎもあった。でも、311震災の後、店主が東京を離れることになり、存続させたい仲間を支えていくことになった。総勢20名程の流動的な運営メンバー。ボスはいない。店番は時間がある人がして、出資はお金がある人がする。関わり方は本人の意思に任されている。気流舎がここに来て欲しいとおもう人で支えるって、まるでコミュニティみたいな本屋だなんて思う。

気流舎のメンバーは、それぞれがオルタナティブな生き方を模索している。運営メンバーのひとり、通称「ハーポ部長」は四国の歩き遍路から、もうひとり、写真家の矢郷桃は、サンフランシスコからNYにある国連まで歩いて横断する「核のない世界をNPT（核拡散防止条約）に向けた平和行進」から帰ってきたばかり。奇しくも二人は同じタイムングで地球を歩いて、気流舎に戻っていた。

2ヶ月近いお遍路の旅を終えてまもないハーポ部長は少し日に焼けていた。「部長」の渾名の由来は、SNSが興隆する以前、「運動部」というウェブサイトを組織していて、その部長だったからだという。もちろんスポーツの運動部ではなく、ムーブ

メントやアクティビズムに掛けた運動だ。その後、仲間三人で、結成した「RLL」は、小難しい現代思想の概念や政治的テーマをパロディー化してファッションアイテムにしてしまおう、という「カルチャー・ジャミング」といわれるトンチの効いた反消費主義的手法でブランドを展開。古今東西の対抗的思想をいかにファッションとしてポップに表現するかを考えているうちに、そのヒントになる本がたくさん集まっている気流舎に入りますように。イベントを企画したり、自作のTシャツを販売しているうちに、気づいたら店番をするようになっていたという。

ここ最近、耳にする言葉に「インフォショップ」というのがある。急激なグローバル化に抗する物理的な拠点のことで、世界中の都市に、このようなオルタナティブな文化を求める人が集まる場所が点在している。一般流通の出版物だけでなく、発信したい人が作ったZine、Tシャツ、ステッカー、バッジ、CDなどが置いてあり、複数の仲間が集ってボランティアで運営していることが多いのも特徴のひとつ。ここ気流舎もまさにそうだ。米パークレーのアナキズムグループが発行している手帳『SLING SHOT』の巻末には「RADICAL CONTACT LIST」というのがあり、世界中のインフォショップと並んで気流舎も登録されている。それを見て海外からお客さんが来ることもあるという。「とにかく自分たちの場所を自分たちで維持していくというってのが大事。対抗文化って仰々しい看板掲げてるけど、別に大したことをやってるわけじゃなくて、ただ物理的な拠点を都会の片隅になんとかみんなですべて保ってるだけかも。」とハーポ部長は語る。確かに場所があれば、人と人が出会えるし、何にも束縛されず自由に自分たちのイベントができる。

ハーポ部長の話を知っていると、「インフォショップ」ってなんだか新しいお遍路の善根宿みたいだな、と思った。気流舎はとても小さなブックカフェ。でもオルタナティブな回線は世界中の仲間たちと繋がっている。 (ますだやあきこ)

\*写真は店の正面入り口